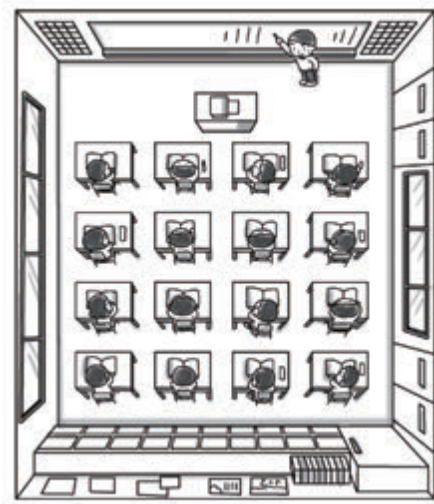


■ピラミードが展開する多様な三次元空間の保育室

●一斉保育と小さなグループに分ける二つの様式

保育室には同じ質の子どもが座っているという発想で行われる保育方法では、教え方も同じ内容を同時に伝えます。当然、保育室も変化させない、同じ秩序が求められます。



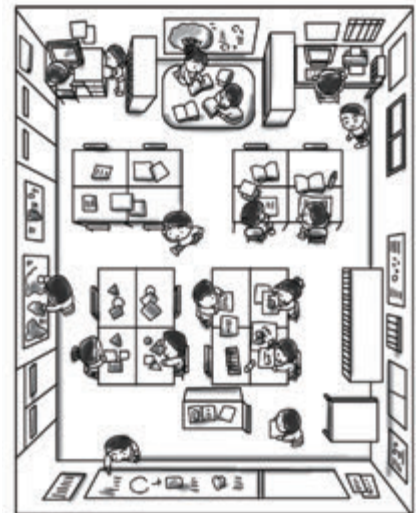
〈ホモジーニアスと呼ばれる一斉教育(保育)の並び方〉

オランダの保育室に足を踏み入ると、保育光景に新鮮な感じを与られます。

子ども全体を指導することに重点がおかれる日本の幼児教育(保育)では、保育室の雰囲気や立体的デザインには無関心で、壁面装飾という二次元的なデザインを、器用な保育者が見栄えの良い装飾に仕上げています。



保育室にはそれぞれ異なった子どもが座っていると考えると、当然、異なった遊びの空間と個別を大事にする教え方が行われます。



〈ヘトロジーニアスと呼ばれ、小さなグループに分かれて遊んでいる〉

オランダの保育室の特色は立体的な三次元デザインです。各コーナーで遊ぶ子どもを一目で見渡せる、何処で何をして遊ぶのか分かりやすく配置されている、おもちゃや様々な素材が棚に見えやすく展示されています。子どもの個性に応じて遊びやおもちゃを選ぶことができ、楽しい遊びと学びの空間がデザインされています。先生は黒板(白板)の前に立ち、子どもたちは一斉に同じ姿勢で、先生と対面的に座る日本の保育室とは異なり、子どもたちは食卓を囲むように小さなグループに分かれて座っています。

〈子どもたちが小さなグループに分かれて、それぞれが異なった遊びをしています。〉